

保幼小中一貫教育の推進方針・学校等再配置計画についての住民説明会  
質疑応答要旨(11/17)

\* 質問・回答とも要旨を記載しております。  
本説明会の主旨に関係する質問のみ掲載

No.	種別	発言内容	回答内容
B-1	意見	これまでの経緯やメリットはわかりました。 医療の分野など、様々な分野での世の中の流れは一極集中ではなく地方分散化傾向であると思います。 教育についても、今ある学校でICTを駆使した遠隔教育とかもできるのではないかと思います。	昔と環境が変わり、現在は兄弟姉妹が少ない、子どものふれあいが少ない状況であり、文科省でも指摘されている問題であります。その人とのふれあう機会的一端は学校が担っていく役割の一つだとされています。 多くの児童たち、異学年の児童たちと交わることは教育としてもとても大切なことだと思っています。
B-2	意見	学校と地域住民のふれあいは大切だと思います。バス通学でそれが無くなるのではないかと考えます。	
B-3	意見	小中一貫校が適しているのは、都市型ではないかと個人的には思います。	一貫教育は義務教育の9年間を通して指導しようとの内容で、都市型であるという認識はございません。
B-4	質問	予算がどれくらいか教えて欲しい。	まだ設計もしていない段階ですので、しっかりとした数字は出ておりませんが、他市町の例ですと一般的に小中一貫校の建設費用は30～50億円と言われております。 財源は、国の補助金と起債を考えており、建設年度の町の持ち出しは事業費の5%程度と見込んでいます。起債したものの返済(償還金)に対し地方交付税措置があり、約2/3を賄われますので、町の年間の負担は数千万円と見込んでおります。ただ解体費用や代替施設が必要な場合その費用は含んでおりませんので、それらを今後精査する必要はあると考えておりますが、国の制度を最大限活用し、町の負担を少なくする努力はしていきます。
B-5	質問	敷地について、吉川中学校の周辺公共施設も含まれているが、どうなのですか。	チラシに書かれている範囲は、教育委員会が企画提案型で業者を選定するために示した範囲であります。 これから町が敷地を指定し、計画を立てていく予定です。 もし既存施設を範囲とすることになれば、住民のサービスを低下するようなことはいたしませんし、複合施設化も視野に入れながら考えていくつもりです。その折にはLCC(ライフサイクルコスト)についても十分検討していきたいと思っております。 いずれにいたしましても、皆様の利便性を損なうとかサービスが低下するということは考えておりません。
B-6	意見	説明会の意見をフィードバックして欲しい。	
B-7	意見	「教育内容の問題」、「地域の問題」、「住民サービスの問題」とカテゴリを分けて議論した方が良くと思います。	
B-8	質問	1小1中が望ましいとする説明と2小2中が難しいという説明が欲しい。	平成20年頃から、特に西地区の子どもが減ってくるという課題がありました。 「子どもたちが減っていくなかで、デメリットを解消する」が大きな目的です。小クラス化や単学級の問題点があり、少子化はなかなか克服できない中、課題解決のため再配置の議論が出てきました。 平成28年に具体的に答申ができました。その中では、平成35年には2小2中であると東地区で1クラス10人台が4学年出てきます。西地区においても1クラス1ヶ台のクラスも出てきます。それに伴い先生方の人数も一定減少する。特に中学校が厳しくなります。現に東能勢中学校では家庭科の先生がおらず、技術科の先生が見ている状況があります。先生方が少ない状況ではきめ細やかな教育は望めないと判断しています。学校運営でも厳しい状況となります。

B-9	意見	やはり生徒は多い方が良い。特に中学校は。 生徒同士の切磋琢磨は必要だと思う。	
B-10	意見	犯罪、熱中症の問題もあり、通学バスは西地区も4km未満であってもお願いしたい。	保護者説明会でも新光風台の方からご要望はございます。十分検討していく課題と認識しており、学校再配置をすることになれば、議論していきたいと思っています。
B-11	意見	子どものランドセルが本当に重いと思います。	
B-12	意見	東地区では小中一貫教育については一定理解はしているが、学校が無くなることには反対しています。豊能町住民連絡会で活動しており、保護者の55%以上が反対しています。そのことを教育委員会内でどう討議されているか疑問に思います。東地区から学校が無くなれば転出されるという方もいます。統合により転出される方ができます。西地区も同様のことがあると思います。 1小1中について、住民・保護者と意見交換の場を設けるべきだと思います。	教育大綱について、説明会を5月から実施させていただきました。 議会でも説明し、予算も認めていただきました。 東地区でも7回程説明会をさせていただき、その中で教育内容については、一定の理解をいただいたと思っています。ただ、ハード面・再配置については、ご意見がありました。我々もなぜ必要かを説明し、ご理解をいただきたいということで意見交換はしておりますが、なかなか出席いただいている保護者の方には上手く話ができていない状況であると思っています。 いまは保護者の方、住民の方へ説明しながら議論させていただいているという段階で、まだそれを集約し、議論しているということではありません。
B-13	質問	通学について文科省の指針がありますが、独自の判断ができるものなのでしょうか。	文科省の基準は、小学校が4kmまで、中学校が6kmまでが徒歩圏内で、それを超える分については補助を出さなっています。その線引きは、補助を出すか出さないかというところであります。
B-14	意見	東地区のスーパーに行ったときに反対のチラシを見ました。東地区にとって学校は地域にとって必要なものと認識しました。 しばらくは人口の推移を見てから決めようかとも思いました。	人口が増えていくという想定はしておりません。いま取り組んでいますのは、若年層の転入促進、転出抑制ですが、若い方々が減っていくということは止めることはできないだろうと思っており、歯止めをかけるという対策しかできないと考えているところです。 学校は地域にかけがえのないものと認識しております。しかしながら、子どもたちの現状は、発達の早期化、社会性の未発達、小集団での固着化など変容をみせております。また教育環境も雨漏りなど修理修繕が頻繁に起こっている状況で、決して整っているとは言い難い状況です。 教育内容をみますと、義務教育9年間を通して教育していく内容になっており、平成32年度に小学校、平成33年度に中学校を学習指導要領に沿ったものにするを指導されております。本町がいま取り組んでいこうとするものと齟齬がないものです。先延ばししたとして、再度計画が出てきたとき、そこからまた5年程の年月はかかるものと思います。それはその時にいる子どもたちにとって最善ではないと思います。
B-15	質問	解体の費用はどれくらいと見込んでいますか。	一般論で申しますと、2～3億円程度ではないかと思っております。
B-16	質問	教師の人件費等についてお聞きしたい。	教師のコストにつきましては、府費負担職員と言いまして、豊能町の費用で雇用しているものではございません。小中一貫校の計画の折に人件費のコストを考えているものではございません。

B-17	意見	吉中の女子テニス部を指導しています。 クラブ活動は、子どもたち自身が自らクラブのルールを決め、お互いに話し合いながら運営しています。気力、体力だけでなく自立心、社会心を養われてきています。学校教育は、教室での学習とクラブ活動が合わさっていくものだと思います。 この話の主体は、大人でなく子どもだ。子どもたちのことを考え、どうあるべきかを考えるべき。先ほど発言されていた方もいますが、クラブ活動がやりたくてもできない、選択できない学校にはして欲しくない。「子どもが主体」を念頭に事に当たっていただきたい。	クラブ活動については、いま吉川中学校では12クラブ、東能勢中学校は6クラブが活動しています。 吉川中学校でもサッカー一部が人数が少なくなり、池田市のほそごう・石橋中と合同チームで練習を行わなければならない状況が既に起こっています。このような状況下では、子どもたちのクラブ活動を活性化することは難しいです。指導者に関しても、先生の数が減れば厳しい状況になります。 子どもたちが選択できる幅を増やすためにも、生き生きと、のびのびと活動できる環境を整えるためにも、提案している考え方がより望ましいのではないかと思います。
B-18	意見	私も吉川中学校の卒業生。 当時は生徒数も多かったです。いま娘が通っていますが、クラブ活動に支障が来たしているのを聞きます。やはり「子どもが主役」「教育を受けるのは子どもたち」なので、そういった目線で取り組んでいただきたい。クラブ活動等、環境が整うのであれば、良いことだと思います。	
B-19	意見	資料として配布されたものだけではなく、質疑の中で答えられたもの(財政面のものとか)などについても公開されてはどうかと思います。	
B-20	意見	新光風台からの通学について、最初は仕方ないと思っていましたが、説明会で心配されている方の話を聞いて、私も心配になりました。一度、希望者で子どもが背負う荷物をもって、実際に暑い日、寒い日に歩く機会を持っていただいたらいかがでしょうか。	荷物が重いことについては認識しており、いま家に持って帰るものと、持って帰らなくてよいものについて、保護者の方に各種たより等でお知らせしたり、分散して持ち帰るような工夫をしております。 (通学バスについては、前述のとおり)
B-21	質問	学校教育の現状は。	昔は中学校が荒れた時期がありましたが、いまは小学校で問題行動が起こっていると認識しています。子どもの成長が早期化しています。学力については、相当な力を持っているとは思いますが、細かく見ると学習への姿勢、態度が弱くなっていると感じています。また自己肯定感が弱い気がします。いずれにしても豊能町の子は素直で頑張り屋というイメージを持っているので、良いところを伸ばしていきたい、豊能町に誇りを持てるような教材を先生方と作っていきたくと思っています。
B-22	質問	「いじめ」のことについて。	少し前までは「いじめのない学校づくり」と言われていたましたが、いじめはあるという前提で、いまは「いじめを許さない学校づくり」に取り組んでいます。 昨年報告されたいじめ件数は、約150件。小学校では、いじり、無視、中学校ではSNSを使ったいじめの事案が報告されています。初期対応をしっかりとすること、加害者に寄り添った対応をすることに注力していくようにしています。
B-23	質問	「教育力日本一」どういうものですか。激変する社会に適應できる子どもの育成に取り組んで欲しい。	学力も大切ですが、気力・体力をしっかり持つ子どもたちを育てて欲しいという町長の願いが根底にあります。 昨年、3年計画で「学力向上プラン」を作成しました。授業に対する態度・姿勢を重要視しています。先生方、特に若い先生方の授業力をつけて頂いて、子どもたちに興味・関心を持つ授業を展開する指導力を目指しています。それが延いては子どもの学力向上につながるものと考えています。いまOB教師を指導につけたり、学期ごとにアンケートを取るなど教育力アップ、学力向上に取り組んでいます。

B-24	意見	クラブ活動の話等出ていましたが、ほそごう学園に個人的に見学に行き、先生に話を聞きました。合併しても人数が少ない。大人数のスポーツに人数を取られると結局選べる選択肢は少ないことや選択肢が増えることで先生の負担が増えるという話を聞きました。	ほそごう学園は、伏尾台小学校と細河小学校と細河中学校の3校が一緒になったものです。もともと細河中学校は1つだけで他の中学校と一緒にいないので、人数が増えない、少ないというのは、そう言うことです。我々がしようとするものは東能勢中学校と吉川中学校の2校を1校にするものなので、ほそごう学園とは異なることを理解していただきたい。
B-25	意見	東地区から学校が無くなると加速度的に人口が減り、若年層の転入が見込めません。そうなると結局人数確保は出来ない。人口増加策は必要です。町づくり、跡地利用も一緒に考えて行かなければならないと思います。	人口問題は前述のとおり、人口の増は想定していません。20代、30代の転出が突出して多い。理由は、結婚と就職。就職については、豊能町から通えない、もしくは利便性を求めて転出される。結婚については、おそらく親御さんと一緒に暮らせない理由で転出や遠方の方とご結婚ということで、それを食い止めることは難しいことです。一方、本町では空き家が増えており、それを活用して若い方に留まっていたり転居していただく取り組みをしています。また豊能町の知名度を住民の皆様で上げていただく取り組み(トヨノポータル)をしています。いま年間の出生数が約50人。何もせずには減少の一途です。ので、できるだけ転出を抑制することに注力しています。跡地についてどうするかについては、当然考えて行かなければなりませんが、まずはどこの学校が空くかも決まっておられませんので、それをすることは時期尚早と考えております。学校再配置が決まった後、公共施設再配置検討委員会を立ち上げ、跡地の活用と公共施設の見直しを同時に進めようと思っております。なるべく早く立ち上げ、議会・住民の皆様へお知らせしたいと思っております。
B-26	意見	東地区を切り離して考えてもらうことはできませんか。	保護者説明会・住民説明会の意見を十分把握をした上で、教育委員会、町長部局で議論させていただく予定です。
B-27	意見	体育館、運動場 図書館、保健福祉センター公的な建物が分散される。	(前述のとおり)
B-28	意見	私は教師を20数年やっており、低学年を見ていました。その経験からバス通学には乗り物に弱い子、運動場の使い方、授業時間の違いなど小さいことを考えたら危惧されることが色々あります。そう簡単には小中一貫校は出来ないのではないのでしょうか。	経験者ということで、一つ一つ心配されていることは理解します。ただ戦後、小学校・中学校という枠組みができて70年。この形に弊害(中一ギャップ、生徒指導面等)が出てきています。小中の教育課程を義務教育の9年間として捉え、子どもたちの育ちを考えていかなければなりません。一つ一つの課題はクリアしていかなければなりません。新しい時代に、新しい学校づくりを目指していかなければならないと思っております。
B-29	意見	小中一貫教育については、皆さん理解されると思います。一貫教育については、研究論文でも二分しています。(視点が、子どもか町づくりかとで見解が違う)子どもたちのことには賛成できるが、町づくりについては説明が足りない、疑問を持たれている方が多いと思います。	